

競技・競技会規則

競技・競技会規則

(TECHNICAL AND COMPETITION RULES)

1 競技会実施 (PROGRAM OF COMPETITION)

1.1 規定種目 (THE TWO LIFTS)

- 1.1.1 (社)日本ウエイトリフティング協会 (以下 JWA と称する)
管理下にある全ての競技会において、次の順に実施した者を
公認する；

- a) スナッチ
- b) クリーン&ジャーク

- 1.1.2 いずれの種目も両手によって実施しなければならない。

- 1.1.3 それぞれの種目に最大 3 回だけの試技が許される。

1.2 競技者 (PARTICIPANTS)

- 1.2.1 競技者は、男子と女子に分けられる。競技者は、ルールによ
り定められた体重の階級により競技する。

- 1.2.2 JWA は 6 つの大きな年齢別グループの競技会を開催する。

中学生： 学校教育法第 1 条に定められた学校に在籍
する生徒及びそれに準じる学校に在籍する
生徒を対象とする。

高校生： 学校教育法第 1 条に定められた学校に在籍
する生徒及びそれに準じる学校に在籍する
生徒を対象とする。

大学生： 大学入学から 4 年以内の学生

ジュニア： 20 歳まで (その年の 12 月 31 日に 21 歳未満
のもの)

シニア：

マスタース： 35 歳以上（その年の 12 月 31 日に満 35 歳以上のもの）「M（男子） 35・W（女子） 35：35～39 歳、M40・W40：40～44 歳、M45・W45：45～49 歳、M50・W50：50～54 歳、M55・W55：55～59 歳、M60・W60：60～64 歳、M65・W65：65～69 歳、M70・W70：70～74 歳、M75・W75：75～79 歳、M80+・W80+：80 歳以上」の 10 グループ

《解説》

- (1) 全日本選手権大会（男・女）、全日本ジュニア選手権大会（男・女）の出場最低年齢を 15 歳とする。
- (2) これらの年齢は満年齢とする。

I WF は、3 つの年齢別グループを公認する。

- i. ユース： 17 歳まで
- ii. ジュニア： 20 歳まで
- iii. シニア

- (1) これらの年齢は競技者の生年で計算する。
- (2) シニア・ジュニア・大学世界選手権大会、その他オープン国際大会の出場最低年齢を男女とも 15 歳とする。
- (3) オリンピック競技大会の出場最低年齢を男女とも 16 歳とする。
- (4) ユースオリンピック競技大会の出場年齢を 16・17 歳とする。
- (5) ユース大会の出場最低年齢を 13 歳とする。

1.3 体重階級 (BODYWEIGHT CATEGORIES)

1.3.1 男子の高校・大学・ジュニア・シニア・マスターズは次の8階級とする。

- (1) 56kg 級 (56.00kg 以下)
- (2) 62kg 級 (56.01～62.00kg)
- (3) 69kg 級 (62.01～69.00kg)
- (4) 77kg 級 (69.01～77.00kg)
- (5) 85kg 級 (77.01～85.00kg)
- (6) 94kg 級 (85.01～94.00kg)
- (7) 105kg 級 (94.01～105.00kg)
- (8) +105kg 級 (105.01kg～)

なお、国民体育大会と高校の競技会は 53kg 級を実施する。

1.3.2 女子は次の 7 階級とする。

- (1) 48kg 級 (48.00kg 以下)
- (2) 53kg 級 (48.01～53.00kg)
- (3) 58kg 級 (53.01～58.00kg)
- (4) 63kg 級 (58.01～63.00kg)
- (5) 69kg 級 (63.01～69.00kg)
- (6) 75kg 級 (69.01～75.00kg)
- (7) +75kg 級 (75.01kg～)

1.3.3 男子のユース及び中学生は次の 8 階級とする。

- (1) 50kg 級 (50.00kg 以下)
- (2) 56kg 級 (50.01～56.00kg)
- (3) 62kg 級 (56.01～62.00kg)
- (4) 69kg 級 (62.01～69.00kg)
- (5) 77kg 級 (69.01～77.00kg)
- (6) 85kg 級 (77.01～85.00kg)
- (7) 94kg 級 (85.01～94.00kg)

(8) +94kg 級 (94.01kg～)

女子のユース及び中学生は次の7階級とする。

(1) 44kg 級 (44.00kg 以下)

(2) 48kg 級 (44.01～48.00kg)

(3) 53kg 級 (48.01～53.00kg)

(4) 58kg 級 (53.01～58.00kg)

(5) 63kg 級 (58.01～63.00kg)

(6) 69kg 級 (63.01～69.00kg)

(7) +69kg 級 (69.01kg～)

1.3.4 競技会参加資格は、それぞれの競技会実施要項の定めによる。

1.3.4

すべてのIWF主催大会においては男子10名女子9名の選手をエントリーできるが、出場できる選手は男子8名女子7名である。1階級最大2名までの選手が出場できる。オリンピック競技大会については5.3項の定めによる。

1.3.5 いかなる大会においても、競技者は1階級のみ出場することが許される。

2 2種目 (THE TWO LIFTS)

2.1 スナッチ (THE SNATCH)

- 2.1.1 競技者の足の前に水平に置かれたバーベルを、手の平を下向きにしてバーを握り、スプリット又はスクワットで頭上へ両腕が完全に伸びきるまでプラットフォームから単一動作で引き上げなければならない。継続された動きの中でバーベルを大腿部にスライドさせてもよい。足以外の部位がプラットフォームに触れてはならない。挙上されたバーベルは両腕・両脚が完全に伸び両足を同一線にもどし、静止した最終姿勢でレフリーの合図があるまで保持していなければならない。競技者がスプリットかスクワットから立ちあがるまでの時間は自由であるが、胴体の面と両足の線とバーとが同一線になるようにする。レフリーは、競技者の体の動きが止まったのを確認したら、直ちに降ろせという合図を与えなければならない。

2.2 クリーン&ジャーク (THE CLEAN AND JERK)

2.2.1 クリーン (The First part, the Clean)

競技者の足の前に水平に置かれたバーベルを、手の平を下向きにしてバーを握り、スプリット又はスクワットでプラットフォームから肩の高さまで単一動作でもってくる。継続された動きの中でバーベルを大腿部にスライドさせてもよい。バーベルは、最終的な位置に上がる前に胸に触れてはならない。バーは、鎖骨の上か乳首より上の胸の位置か、あるいは完全に曲げられた両腕の上にセットする。ジャークを始める前に、両足を同一線上に戻し両脚を伸ばす。この姿勢を整えるまでの時間は自由であるが、胴体の面と両足の線とバーベルとが

同一線になるようにする。

2.2.2 ジャーク (The second part, the Jerk)

両脚を曲げ伸ばすと同時に両腕を完全に伸ばし、バーベルを両腕が垂直に伸びた位置までもっていく。両足を同一線上に戻し両腕と両脚を伸ばした姿勢でレフリーの合図を待つ。レフリーは、競技者の体の動きが止まったのを確認したら、直ちに降ろせという合図を与えなければならない。

《重要事項》

クリーン後ジャークを始める前に、バーベルの位置を調節することができる。しかし、いかなる場合もジャークの反復はできない。次の動作は許される。

- a) フックを用いた時にそれを外すための動作。
- b) バーベルの位置が高すぎて痛かったり呼吸が苦しくなりバーベルを肩の高さまでおろす動作。
- c) グリップの幅を変えるための動作。

2.3 全ての試技に関する一般的規則 (GENERAL RULES FOR ALL LIFTS)

2.3.1 フックとして知られているテクニックは許される。これは、拇指の最後の関節を同じ手の他の指でおおってバーベルを握ることである。

2.3.2 全ての試技において、バーベルが膝の高さまで達した場合は1試技と数える。

2.3.3 レフリーの合図の後、競技者はバーベルを体の前に降ろさなければならない。故意にせよ偶発的にせよバーベルを落としてはならない。バーが肩の線を通じた後であれば手を離してもよい。

- 2.3.4 競技者が肘の解剖学的奇形により腕を完全に伸ばすことができない場合は、競技開始前にジュリーと3名のレフリーに届けなければならない。
- 2.3.5 スナッチ又はスクワットクリーンの時、競技者が身体をゆすることによって立ちあがることは許される。
- 2.3.6 競技会場内では、大腿部にグリース・油・水・化粧用パウダー等いかなる潤滑材も使用することを禁ずる。競技会場内に入場した時点で、競技者の大腿部にいかなる物もつけていてはならない。潤滑剤を使用していると認められた競技者は、直ちにこれを取り除かなければならない。潤滑剤を取り除く間、時計は作動させる。
- 2.3.7 炭酸マグネシウムを手・大腿部・その他に使用してもかまわない。

2.4 全ての試技に関する反則動作 (INCORRECT MOVEMENTS AND POSITIONS FOR ALL LIFTS)

- 2.4.1 ハングから引きあげること。
- 2.4.2 両足底以外の体の部分がプラットフォームに触れること。
- 2.4.3 両腕の不均衡な伸び及び伸びきらないこと。
- 2.4.4 両腕を伸ばす間に一時休止すること。
- 2.4.5 最後にプレスアウトすること。
- 2.4.6 最終姿勢に戻るまでに肘のゆるみがあること。
- 2.4.7 挙上中にプラットフォームから足を踏みだすこと。体のいずれかの部分がプラットフォーム以外の場所に触れること。
- 2.4.8 レフリーの合図前にバーベルを降ろすこと。
- 2.4.9 レフリーの合図後にバーベルを落とすこと。
- 2.4.10 足とバーベルを胴体と同じ向きの同一線上に戻さないこと。

2.4.11 バーベルをプラットフォーム上に降ろせなかった場合。すなわち、バーベルは両側ともに最初はプラットフォームに触れなければならない。

2.4.12 挙上開始時にセンターレフリーに正対していないこと。

2.5 スナッチの反則動作 (INCORRECT MOVEMENTS FOR THE SNATCH)

2.5.1 バーベルを引き上げる間に一時休止すること。

2.5.2 挙上中にバーベルが競技者の頭に触れること。

2.6 クリーンの反則動作 (INCORRECT MOVEMENTS FOR THE CLEAN)

2.6.1 両腕の肘を返す前に、バーベルを胸に乗せること。

2.6.2 肘又は腕が膝又は大腿部に触れること。

2.7 ジャークの反則動作 (INCORRECT MOVEMENTS FOR THE JERK)

2.7.1 バーベルを挙げようとするいかなる努力も、もし完成しなければ一回の失敗となる。(ニーディップの反復は許されない)

2.7.2 ジャーク前に故意にバーベルを振動させ有利にすること (オシレーション・oscillation) はできない。ジャークのスタートは静止した状態でなければならない。

- 3 施設、器具と書類 (FACILITIES, EQUIPMENT AND DOCUMENTS)
- 3.1 競技用プラットフォーム及びステージ (フィールド・オブ・プレイ) (COMPETITION PLATFORM AND STAGE – FIELD OF PLAY)
- 3.1.1 全ての試技は競技用プラットフォーム上で行われなければならない。
- 3.1.2 プラットフォームは水平な4m四方とする。プラットフォームと周辺の床が類似した色である場合は、区別するために最低15cm幅の異なる色で縁取りしなければならない。
- 3.1.3 プラットフォームは木・プラスチック又はその他の固い素材で作られていること。そして、それらは滑らないものでカバーされていてかまわない。
- 3.1.4 厚さは15cmを超えてはならない。
- 3.1.5 プラットフォームの周囲1mにはディスクを含め何も置いてはならない。そしてそこは水平でなければならない。
- 3.1.6 ステージの大きさは最低10m×10mとし、レフリー席及びジュリー席の床面からプラットフォーム表面までの高さは最大1mとする。プラットフォームには標準的な段差をもつ階段を備え付けておかなければならない。
- 3.1.7 プラットフォームがステージ上に設置されている場合は、少なくともプラットフォームと同じ長さをもつストッパーを前後に固定しなければならない。プラットフォーム前のストッパーはプラットフォームから最低2.5m、後のストッパーは最低2m離し、かつ可能な限りステージの端に近くなるよう設置する。ストッパーの高さと幅は、それぞれ最大20cmとする。

- 3.1.8 炭酸マグネシウムと松やにをステージ上に設置すること。それらは競技者の入場側に置かなければならない。また器具係が使うバーの消毒用具をステージの近くに用意すること。
- 3.1.9 怪我をした選手を運ぶためのストレッチャー（担架）を、ステージのそばに用意しておくこと。

3.2 ウォーミングアップ場 (WARM-UP AREA)

競技者が競技の準備をするために、競技場の最も近いところにウォーミングアップ場を用意しなければならない。ウォーミングアップ場は、参加競技者数に応じて適切な数のプラットフォーム・バーベル・炭酸マグネシウムなどが備えられていないといけない。またプラットフォームには番号をふる。さらにウォーミングアップ場には次の物が備えつけられていなければならない。

- ・アナウンサーの放送が聞こえるスピーカー
- ・抽選番号順にした競技者名・体重・申し込み重量を含む試技重量を記載したスコアボード
- ・ドクターのための机
- ・競技場と連動している時計
- ・プラットフォーム上の映像を流すビデオモニター

3.3 その他の施設 (OTHER FACILITIES)

IWFが主催する大会においては、競技会場に次の施設がなければならない。

- 競技者の休憩室
- 救護室
- ドーピングコントロール室

- プレスセンター
- VIP およびテクニカルオフィシャルの控室
- IWFのオフィス
- 検量室および予備検量室
- サウナ
- トレーニング場（異なる場所でも構わない）

3.4 器具 (EQUIPMENT)

- 3.4.1 IWFが主催する大会、オリンピック競技大会、大陸・地域・その他競技大会、大陸・地域選手権、ほかIWF理事会が指定した大会においてはIWFが公認・認定したバーベル、プラットフォーム、競技運営ITシステムしか用いることができない。公認・認定にあたっては理事会が決定する。
- 3.4.2 IWFのライセンスを申請・取得するためにはバーベルのメーカーはオリンピックサイクルごとにライセンス・フィーを支払わなければならない。IWFの認定を得るには、IWFの定めた品質規定をクリアしなければならない。
- 3.4.3 オリンピック競技大会に関しては、IWF理事会が、バーベルおよびプラットフォームについて公認されたメーカーの中から選択する。
- 3.4.4 競技運営ITシステムについては次のものが含まれる：
- 競技運営ソフトウェア
 - スコアボード
 - アテンプトボード
 - 電気判定システム
 - ジュリー用コントロールボックス
 - 時計

- 体重計

- 3.4.5 各世界選手権大会、世界大学選手権大会、グランプリ、オリンピック参加枠獲得対象大会となる大陸選手権においては、IWF 競技運営 IT システム(TIS)を使わなければならない。
- 3.4.6 大陸選手権大会、大陸・地域・その他の複合競技大会（コモンウェルスゲームズ、メディテラニアンゲームズ、東南アジア大会、南米大会、アラブ競技大会など）、及び地域選手権においてはIWFから認定された競技運営 IT システムしか用いてはならない。

3.5 バーベル (BARBELL)

- 3.5.1 競技会のバーベルは、JWA IWF の公認・認定を受けたものでなければならない。

- 3.5.2 バーベルは次のパーツからなる。

- i) バー
- ii) ディスク
- iii) カラー

3.5.2.1 i) バー

男子の公認・認定バーは 20kg、女子の公認・認定バーは 15kg で、巻末に示された規格に沿うものでなければならない。

3.5.2.2 ii) ディスク

ディスクは次の規格でなければならない。

- a) ディスクの種類と色は次のとおりとする。

25kg	－	赤	2.5kg	－	赤
20kg	－	青	2kg	－	青
15kg	－	黄	1.5kg	－	黄
10kg	－	緑	1kg	－	緑

5kg - 白 0.5kg - 白

- b) 最大のディスクの直径は、450 mm±1 mm
- c) 450 mm のディスクの場合は、少なくとも外側をゴムあるいはプラスチックで覆いペンキ又はパーマネントカラーを塗らなければならない。
- d) 10kg 未満のディスクは金属あるいはその他の素材で製造しても構わない。
- e) 全ての規格のディスクに重量表示すること。

3.5.2.3 iii) カラー

確実にディスクをバーにセットするために、男女ともに 1 個 2.5kg のカラー2 個をバーにセットしなければならない。
注:それらのカラーは小さなディスクを外付けできるように
なっているにもかかわらず。

3.5.3 競技用のバーとディスクの誤差範囲について：10kg 以上のものについては、その重量の+0.1%～-0.05%とする。5kg 以下のものについては、その重量の+10g～-0gとする。

トレーニングディスクの誤差範囲について：その重量の+0.8%～-0.8%とする（巻末の表参照）。トレーニングディスクの色は、各重量に沿った色、あるいは黒かつ縁取りを各重量に沿った色とし、さらに「Training」と明記しなければならない。

3.5.4 競技用のバーは、プラットフォーム上、ウォーミングアップ場、及びトレーニング場で使用されなければならない。競技用ディスクはプラットフォーム上及びウォーミングアップ場で使用されなければならない。トレーニングディスクはトレーニング場で使用することができる。

3.5.5 ディスクは、最も重いディスクを内側にし順次軽いものとし、

レフリーにその重量が判るようにしなければならない。ディスクはカラーによって完全に止めなければならない。ディスクは重量表示のある方を外側に向けなければならない。

3.5.6 バーのマーキング

男女のバーを見分けやすくするため、男子用のバーはブルーのマークを、女子用のバーには黄色のマークをつけなければならない。これは20kg ディスクの色及び15kg ディスクの色と同一である。

3.6 電気判定システム (ELECTRONIC REFEREE LIGHT SYSTEM)

3.6.1 システムの構成 (ELEMENTS OF THE SYSTEM)

電気判定システムは次のもので構成される。

- a) 3名のレフリーにそれぞれ1つのコントロールボックスが置かれる。コントロールボックスは、白と赤の2つのボタンで合図が出せる仕組みである。
- b) ダウン表示器は、プラットフォームの前方に置かれ視覚と聴覚でダウンの合図が判断できる器具である。表示の高さはプラットフォームから最低50cm なければならない。
- c) 競技者と観客に判定がわかるように、それぞれ水平に3つの赤と白の表示が出る判定器を 2 以上 設置しなければならない。
- d) コントロールボックスはジュリー席に置かれ、レフリーのコントロールボックスと直結しており、レフリーの判定が直ちに表示されることと併せてレフリーを呼び出すことも可能な装置である。

3.6.2 操作 (OPERATION OF THE SYSTEM)

- 3.6.2.1 3人のレフリーは判定を下す上ですべて同じ権限を有する。
- 3.6.2.2 一試技毎にそれぞれのレフリーは、競技規則に従って成功の白ボタンか失敗の赤ボタンを押さなければならない。
- 3.6.2.3 レフリーは、試技が成功と判断したならば直ちにコントロールボックスの白ボタンを押さなければならない。
- 3.6.2.4 レフリーは、試技が失敗と判断したならば直ちにコントロールボックスの赤ボタンを押す。試技の途中で失敗の動作を発見した場合も直ちに赤ボタンを押さなければならない。
- 3.6.2.5 ダウン表示器は、3人のレフリーのうち2人のレフリーが同一の判定をした場合に作動し、競技者にバーベルをプラットフォーム上に降ろす合図を出す。
- 3.6.2.6 ダウンの判定を1人のレフリーが白、1人のレフリーが赤で残りのレフリーが保留している場合は、コントロールボックスに間歇音が送られ、早く判定するよう促される。また、白の判定が2人、あるいは赤の判定が2人でダウン表示器が作動した場合で、残り1人のレフリーが判定を下していない場合にも間歇音がコントロールボックスに送られ、早く判定するように促される。
- 3.6.2.7 3人のレフリーが判定を下すと、判定器のライトが点灯し、どのレフリーが白・赤いずれの判定をしたかが判る。判定器のライトは最低3秒間点灯していなければならない。
- 3.6.2.8 ダウン表示器の作動後から判定器の作動前の3秒間にレフリーは判定を変えることができる。例えば、成功の挙上後バーベルを落としたため、レフリーが赤のボタンを押し失敗の判定に変える場合などである。3秒の間に、判定の変

更ができなかった場合には、レフリーは赤旗にて判定の変更をしなければならない。

3.6.2.9 ダウンシグナルが出され判定器も作動したにもかかわらず、競技者がバーベルを降ろさない場合は、センターレフリーは「ダウン」と声に出し、手でバーベルを降ろすよう合図を出さなければならない。

3.6.2.10 マスターズの競技会では、レフリーは本規定どおりでなくとも、一定の裁量権をもって判定できる。

3.7 ジュリーのモニタリング (JURY MONITORING)

ジュリーは、競技中レフリーの判定をコントロールパネルでモニタリングする。レフリーの判定は、コントロールパネルに表示される。直ちにあるいは後からアドバイス等ができるよう、判定が遅い・早い・未判定のケースも見分けることができる。プレジデントジュリーがいずれかの、あるいは全てのレフリーを呼びたい場合には、合図のためのボタンを押せば呼び出し音が鳴り、レフリーを呼ぶことができる。

3.8 計量器 (SCALES)

3.8.1 JWA主催大会での計量器は、最小 20g から 200kg まで計れるものでなければならない。

3.8.1

IWF主催大会での計量器は、最小 10g から 200g まで計れるものでなければならない。
--

3.8.2 JWA主催大会においては、検量に使用する計量器と同じ規格の計量器を予備検量室に用意しなければならない。

世界選手権大会・オリンピック競技大会・主要国際大会においては、競技者が体重をチェックできるよう、検量に使用する計量器と同じ規格の計量器（テストスケール）を、本検量室近くに設けた予備検量室に用意しなければならない。

3.8.3 計量器は使用する地域において検定を受けなければならない。検定は大会前3か月以内に受けること。

3.9 時計 (TIMING CLOCK)

3.9.1 JWA IWFの主催する競技会では、電気または電子時計をカウントダウンモードにて用いなければならない。時計は、正確に計時できるとともに次の装置を備えていなければならない。

- a) カウントダウンモードにて最低 15 分間計時できること。
- b) 最低 1 秒きざみで計時できること。
- c) 与えられた時間の 90 秒前及び 30 秒前に自動的に警告音の鳴る装置を備えていること。

3.9.2 時計は、競技場及びウォーミングアップ場に同時に表示されなければならない。競技場内の時計は、観客席の方向とプラットフォーム上の競技者の方向に表示されなければならない。（合計 3 箇所、同時に作動すること。）

3.10 アテンプトボード (ATTEMPT BOARD)

アテンプトボードには次の情報が表示されなければならない。

- 競技者名（姓・名の順）
- 所属 IWF/I OC 国名コード
- パーベル重量

- 試技回数
- 階級（グループ）ごとに振り替えられた抽選番号

3.11 スコアボード (SCOREBOARD)

競技会場の見やすい場所に掲示され、特定の階級の進行状況と結果を時々刻々と表示するものである。スコアボードはその階級あるいはグループの全ての参加競技者における次の情報について、競技時間中、常に表示していなければならない。

- 階級（グループ）ごとに振り替えられた抽選番号
- 競技者名（階級/グループごとの番号の若い順に並べ替える）
- 生年（できれば生年月日）
- 体重
- 所属 IWF/IOC国名コード
- スナッチの3回の試技
- クリーン&ジャークの3回の試技
- トータル
- 順位

3.12 レコードディスプレイ (RECORD DISPLAY)

実施されている階級の最高記録を競技会場に掲示しなければならない。インフォメーションは競技実施中常に表示されていること。また新記録が樹立された際は直ちに掲示内容を更新しなければならない。

3.13 ビデオスクリーン (VIDEO SCREEN(S))

観客のための競技場内及びウォーミングアップ場にビデオ
スクリーンを設置しなければならない。

注) 可能な限り国内でも導入すること。

3.14 競技会のための公式書類 (OFFICIAL DOCUMENTS OF THE COMPETITION)

3.14.1 スタートリスト・パッケージ。次の書類を含める。

- 競技の日時、グループ、審判団の割りあてを示したタイムテーブル
- 審判団のリストおよび編成
- 抽選番号、名前、生年月日、所属 IWF/IOC 国名コード、エントリートータルを含めた階級 (グループ) ごとのスタートリスト

3.14.2 検量リスト (Weigh-in List)

階級 (グループ) ごとに作られ、次の内容を含める。

- 抽選番号、選手名、生年月日、所属 IWF/IOC 国名コード、エントリートータル
- スナッチ及びクリーン&ジャークの第一試技
- 検量に立ち会った審判団のサイン

検量リストは検量終了後なるべく早く関係各所に配布されなければならない。

3.14.3 試技票 (The Competitor's Card)

試技票は競技者ごとに作られ、階級ごとに振り替えられた抽選番号、名前、所属 IWF/IOC 国名コード、生年月日、体重、階級及びグループ、エントリートータルが記載される。各試技の重量を記入するために使用する。内容の変更に当たってはルールに従っていないといけない。新たな内容を

記入するたびにコーチはサインをしなければならない。

3.14.4 階級・グループごとの公式プロトコール (The Protocol)

手書き又はコンピュータで打ち出された競技結果を示すもので、競技委員長コンペティションセクレタリー/ダイレクター・プレジデントジュリーの署名が必要である。階級ごとに振り替えられた抽選番号、抽選番号、名前、生年月日、所属IWF/IOC国名コード、体重、全ての試技の重量とその結果、達成された新記録がここに記載される。コンピュータを使っている場合はそのバックアップとして、指名された者による手書きのプロトコールが記載されなければならない。

3.14.5 成績表 (Final Results Package)

これは各大会終了後、参加選手団に配布されるものであり、CD-ROM や DVD で配布してもよい。内容には次のものを含む。

- チーム得点表。ここにはチームの順位、所属IWF/IOC国名コード、それぞれのチームが獲得した得点の詳細及び選手の数を含める。
- 試技毎のスナッチ・クリーン&ジャーク、トータルの結果。順位、名前、生年月日、所属IWF/IOC国名コード、体重を含める。
- 新記録。ここには階級、名前、生年月日、所属IWF/IOC国名コード、達成された新記録の重量を含める。

4 競技者の服装 (OUTFIT OF THE COMPETITORS)

4.1 コスチューム (COSTUME)

4.1.1 競技者は、清潔な、次の基準に則したコスチュームを着用しなければならない。

む。

- ワンピース又はツーピース型で競技者の胴をカバーするもの
- 体にフィットしていること
- 襟なしであること
- 色については規定しない
- 肘をカバーしていないもの
- 膝をカバーしていないもの

4.1.2 コスチュームの下にTシャツを着ても構わないが袖は肘をカバーしてはならず、襟なしでなければならない。またコスチュームの下又は上に体にフィットしたスパッツあるいはサイクリング用トランクスを着用しても構わないが、膝をカバーしてはならない。

4.1.3 Tシャツとトランクスの組合せにより、コスチュームの代用にしてはならない。

4.1.4 競技中、競技者の服装は所属団体により認められたものでなければならない。表彰式においても同様である。

4.1.5 膝下までのソックスは履いても構わない。ただし禁じられた部位においてソックスとバンデージが重なってはならない。

4.2 ウエイトリフティングシューズ (WEIGHTLIFTING FOOTWEAR)

4.2.1 競技者は、(ウエイトリフティングシューズ/ウエイトリフテ

イングブーツと呼ばれる) スポーツシューズを履かなければならない。それは、足を守り競技においてプラットフォーム上で安定性を保つためにも必要である。

4.2.2 ウェイトリフティングシューズを履くことにより、4.2.1 で定めた以外に特に競技に有利になるようなものは許されない。

4.2.3 甲のストラップは許される。

4.2.4 ヒール部分を補強しても構わない。

4.2.5 靴底の上部より靴の上部までの長さは 13cm 以下とする。

4.2.6 靴底は、縁より 5mm 以上はみ出してはならない。

4.2.7 靴の材質は、何れのものでも構わない。

4.2.8 靴底の厚さは自由である。

4.2.9 上記の規定内であれば、型はどのようなものでも構わない。

4.3 ベルト (BELT)

4.3.1 ベルトの幅は 12cm 以下とする。

4.3.2 コスチュームの下にベルトをしてはならない。

4.4 バンデージ・テープ及びプラスター (BANDAGES, TAPES AND PLASTERS)

4.4.1 バンデージ・テープ及びプラスターを、手首・膝・手・指又は拇指につけても構わない。

4.4.2 バンデージの素材は、ガーゼ・医用クレープ・革とする。膝には、ゴム製のニーキャップをつけても構わない。ニーキャップはいかなる方法においても補強したものであってはならない。

4.4.3 手首は、10cm までカバーしても構わない。

- 4.4.4 膝は、30cm までカバーしても構わない。
- 4.4.5 バンデージの長さは制限しない。
- 4.4.6 手にバンデージ又はプラスターを使用するときは、甲・ひらともに使用しても構わない。これらのバンデージ又はプラスターは、手首まで至っても構わないが、バーに巻きつけてはならない。
- 4.4.7 指にプラスターを貼っても構わないが、指先より突き出してはならない。
- 4.4.8 手のひらを守るために、特別の指なしのグローブを着けても構わない。それは、器械体操用の保護具、自転車競技用のようなものである。なお、指の第2関節をカバーしてはいけない。指にプラスターを使用する場合には、グローブと完全に分けなければならない。
- 4.4.9 バンデージ又はその代用品を次の場所につけてはならない。
- | | | |
|------|--------|------|
| a) 肘 | c) 大腿部 | e) 腕 |
| b) 銅 | d) 脛 | |
- 負傷した場合には、ドクターはその権限によって出血したいずれの部位にもプラスターを貼ることができる。
- 4.4.10 各部位には、同一タイプのテープ・バンデージだけが使用できる。
- 4.4.11 コスチュームとバンデージを確実に分離すること。
- 4.5 IWFは、個々の衣服について、10.4 に則る範囲における製品/スポンサーのロゴを認める。オリンピック競技大会においてはIOCでのルールが優先される。

5 競技会 (COMPETITIONS)

5.1 IWF イベント (IWF EVENTS)

5.1.1

世界選手権、オリンピック競技大会、大陸選手権、複合競技大会あるいはその他の IWF イベントにおけるウェイトリフティング競技は IWF の監督のもと、IWF 憲章及び競技・競技会規則に完全に則った上で運営されなければならない。可能な限り、IWF 世界選手権運営マニュアルに記載された項目に沿って運営すること。

5.1.2

大会運営にあたる NF は、IWF に加盟しているすべての NF からのエントリーを絶対に受け入れること。

5.1.3 JWA 競技会 IWF イベント

における競技はすべて、IWF が認めた階級で、2 種目(スナッチ、クリーンアンドジャーク)によって競う。

5.1.4

世界選手権やオリンピック大会の前後 30 日間は、これらの大会参加に支障の出ることのないよう、主要な国際大会を開催してはならない。

5.2 世界選手権大会 (WORLD CHAMPIONSHIPS)

5.2.1 世界選手権大会は夏季オリンピックの年を除き毎年開催される。世界ジュニア選手権大会は毎年開催される。夏季ユースオリンピック競技大会の年を除き、ユース世界選手権大会を毎年開催しても構わない。

5.2.2 世界選手権大会においては、IWF の参加資格に合致した競

技者しか出場することはできない。

- 5.2.3 各階級においてスナッチ、クリーンアンドジャーク、トータルのそれぞれ3位までに入賞した競技者に対し、金、銀、銅のメダルを授与する。
- 5.2.4 世界選手権大会の開催を希望する場合は、開催地決定についての協議が予定されているIWF理事会の60日前までに文書にて立候補を行う。IWF事務局は文書を受け付け次第、開催計画に関する質問紙を送付する。この質問紙は記入の上、IWF事務局に返送しなければならない。
- 5.2.5 開催地はIWF理事会によって決定される。
- 5.2.6 世界選手権大会の開催地が決定したならば、IWFとホストNFとの間で、基本的にはホストNFが質問紙に答えた内容に沿った形で、大会の組織運営に関する主な責務や条件についての協定を結ぶ。
- 5.2.7 世界選手権大会の開催期間は8日間を下回ってはならない。世界ジュニア選手権大会の開催期間は7日間を下回ってはならない。世界ユース選手権大会の開催期間は理事会で決定される。

5.2.8 金銭面での責任 — 開催NF / 組織委員会

5.2.8.1

参加者に対し、1泊あたりの料金をあらかじめ定めた上で、3食つきの宿泊を用意しなければならない。また、空港からホテル間、ホテルと各施設間の輸送、競技会場へのアクセス、公式の会議場、練習会場、クロージングバンケット等についても準備しなければならない。宿泊料については、IWFの承認が必要となる。承認に際しIWFはその料金がサービスに見合うものかどうかについて検討する。

- 注1： IWF理事が審判団に選ばれている場合は、世界選手権大会の大会期間中、シングルルームが与えられる。会議だけの参加の場合には会議期間中のみシングルルームが与えられる。もしIWF理事が期間を超えて宿泊する場合には、基本料金（ツインルーム料金）だけを組織委員会に支払えばよい。
- 注2： 各チームにおいては、チームリーダーのみ基本料金（ツインルーム料金）にてシングルルームに宿泊することができる。誰がシングルルームに宿泊するかはチームの中で決めることができる。
- 注3： チームの人数がそれぞれの性において奇数である場合（例・女子5名、男子7名）、残りの一人が他の国と部屋を共有することはない。このような場合はツインルーム料金にてシングルルームが与えられる。

5.2.8.2

練習会場および練習会場への輸送は競技開始の少なくとも4日前から用意しておかなければならない。

5.2.8.3

最大45名の審判団（レフリー、ジュリー、テクニカルコントローラー、ドクター、コンペティションセクレタリー、チーフマーシャル）について、競技開催日数プラス2日分までの宿泊料を負担しなければならない。審判団の人数は、競技開催日程、世界選手権大会の種類、その他を考慮に入れた上で、またIWFとホストNF / 組織委員会との間の協定書に基づいて決定される。IWF理事会やIWFの各委員会が世界選手権大会にあわせて開催される場合、審判団に選ばれているIWF理事や

各委員に対し、競技開催日数プラス5日分の宿泊を供さなければならない。審判団に選ばれた者が上記の特典を享受するためには、大会終了まで滞在し任務にあたらなければならない。また、上記の期間を超えて滞在する場合には、その分は各自の負担となる。

5.2.8.4

宿泊料については大会の6ヶ月前には決定し、その額より増やしてはならない。

5.2.8.5

総会（コンGRESS）、IWF理事会、IWF各委員会、ファイナルエントリーの確認、審判会議（2回）、カレンダー会議の施設（会場、通訳、マイク等の備品、コーヒー、クッキー、果物などの飲食物を含む）について無償提供すること。

5.2.8.6

IWFのルールに関して大会会場や練習会場に必要とされる施設（器具、机や椅子等を備えた会場及び控室、スタッフ、救護室、飲料）を無償提供すること。すなわち、次についてである：

- 競技会場
- ウォーミングアップ場
- 検量後の選手控室
- 救護室
- ドーピングコントロール室
- プレスセンター
- VIP・審判控室
- IWF事務室

- 検量室
- サウナ
- 練習会場

5.2.8.7

大会に関する医療保険や入院保険等に参加しておくこと。

5.2.8.8

IWF 技術委員会、医事委員会、科学調査委員会の各委員長が審判団に含まれていない場合には競技開催日数プラス5日分の宿泊を無償提供すること。

5.2.8.9

IWF 会長、IWF 事務総長に対しビジネスクラスの往復航空運賃と競技開催日数プラス6日分の宿泊を、IWF 事務局員5名および指名された A.I.P.S 記者に対しエコノミークラスの往復航空運賃と競技開催日数プラス6日分の宿泊を無償提供すること。

5.2.8.10

IWF 事務局、会議および総会に関し、OA 機器を備えた諸室を用意し、また競技会場及びそこで用いる OA 機器を用意すること。

5.2.8.11

大会に先立って、その準備状況を見るためにユース世界選手権大会では1名、世界ジュニア選手権大会では2名、世界選手権大会では3名の IWF からの視察員が派遣されることがある。その際には往復の航空運賃および滞在費を負担すること。

5.2.8.12

参加者すべてに対し、参加章としてのメダルとディプロマを提

供すること。

5.2.9 金銭面での責任 — 大会に参加するNF

5.2.9.1

大会に参加する者は、組織委員会が開催要項で示した宿泊料において供される宿泊施設を受け入れなければならない。宿泊単価はIWFがサービスに見合った額かどうかを検討した上で示されたものである。

5.2.9.2

エントリーフィーとして、各参加者について、1人あたり200\$をホストNF/組織委員会に支払うこと。200\$のうち100\$は組織委員会に納められ、残りの100\$はアンチドーピングファンドとしてIWFに納められる。

5.2.9.3

審判団、IWF会長、IWF事務総長、IWF各委員会委員長、IWF事務局員、派遣されたAIPSジャーナリストおよび資格を有するジャーナリストについてはエントリーフィーを支払う必要はない。IWF理事、各委員会委員、総会（コンGRESS）の出席者についても、それぞれの会議に参加するだけの場合はエントリーフィーを支払う必要はない。ただしその場合は、総会後は会議に関係のない輸送車両を利用したり、競技会場内に入ったり、その他の大会に関するセレモニー等のイベントに出席することはできない。

5.2.9.4

病気や事故等が発生したときには世界選手権大会に参加している側のNFがその道義的及び金銭的責任を負うこと。

5.3 オリンピック競技大会 (OLYMPIC GAMES)

5.3.1 IWF理事会、IOC、大会組織委員会の間での協議をすませた上で、オリンピック競技大会開始の少なくとも24ヶ月前に、IWFは各NFに対し下記についての通知をする。

- 競技のプログラム
- 競技日程
- 競技者の参加基準（参加枠獲得要項）
- エントリー条件

5.3.2 オリンピック競技大会におけるウエイトリフティング競技実施期間はIOC、大会組織委員会、IWFとの間で協議され、休息日を含め適切な日数が設定される。

5.3.3 一つのNOCからオリンピック競技大会に出場できる人数は、オリンピック競技大会参加枠獲得要項に従ってそれまでに獲得された人数であり、かつ一つの階級に出場できる人数は最大2名である。

5.3.4 オリンピック競技大会の金、銀、銅メダルが各階級トータルの上位3名に授与される。

5.3.5 オリンピック大会におけるテクニカルデレゲートとして、IWF理事会により2名が指名される。テクニカルデレゲートの役割は、オリンピック競技大会ウエイトリフティング競技の競技運営の調整を図りつつサポートをすることである。テクニカルデレゲートが事前に開催地を訪問できる回数は大会組織委員会とIWFとの間の協定によって定められる。

5.3.4 IWF理事会はオリンピック大会の6ヶ月前に、各NFが候補者として提出したリストの中からオリンピック競技大会のテクニカルオフィシャルを指名する。指名を受けたテクニカルオフィシャルは自国の選手団に入ってはならない。

5.4 ユースオリンピック競技大会 (YOUTH OLYMPIC GAMES)

5.4.1 参加できるのは16歳及び17歳の選手である。

5.4.2 ユースオリンピック競技大会における階級は次の通り。

男子

- (1) 56kg 級 (56.00kg 以下)
- (2) 62kg 級 (56.01～62.00kg)
- (3) 69kg 級 (62.01～69.00kg)
- (4) 77kg 級 (69.01～77.00kg)
- (5) 85kg 級 (77.01～85.00kg)
- (6) +85kg 級 (85.01kg～)

女子

- (1) 48kg 級 (48.00kg 以下)
- (2) 53kg 級 (48.01～53.00kg)
- (3) 58kg 級 (53.01～58.00kg)
- (4) 63kg 級 (58.01～63.00kg)
- (5) +63kg 級 (63.01kg～)

5.4.3 ユースオリンピック競技大会におけるウェイトリフティング競技実施期間はIOC、大会組織委員会、IWFとの間で協議され、適切な日数が設定される。

5.4.4 参加枠獲得システムがIWFとIOCの間で構築され、ユースオリンピック競技大会に先立ち、各NFに対し連絡される。

5.4.5 一つのNOCからオリンピック競技大会に出場できる人数は、参加枠獲得システムに従って獲得された人数である。

5.4.6 金、銀、銅メダルが各階級トータルの上位3名に授与される。

5.5 オリンピック競技大会以外の複合競技大会 (MULTISPORT GAMES OTHER THAN OLYMPICS)

- 5.5.1 大会の少なくとも2年前までに、施設や競技の運営方法についてIWFに説明を行い、IWFからの承認を得なければならない。IWFから1名のテクニカルデレゲートが視察に派遣される。それにかかる旅費および滞在費は、大会運営にあたるNFあるいは大会組織委員会が負担しなければならない。
- 5.5.2 大会におけるウェイトリフティング競技の開催要項とスケジュールは、公開される前にIWFの承認を得なければならない。要項は英語で表記し大会組織委員会が必要と判断するのであれば、加えて他の言語でも表記する。
- 5.5.3 IWFはすべての施設をチェックし、関係する大陸あるいは地域連盟及び大会組織委員会との間で協議した上でジュリー及びレフリーの承認を行う。IWFの代表者は、施設が適切なものであるか、またIWFのルールが適切に運用されているかをチェックするため大会に先立ち会場地に向かう。
- 5.5.4 IWFの代表者には会長、事務総長、あるいは会長あるいは事務総長が指名した者が任務にあたることができる。IWFの代表者は、プレジデントジュリー、ジュリーメンバー、あるいはコンペティションセクレタリーの中で最も適したポジションを引き受ける。
- 5.5.5 IWF代表者の大会派遣にかかる旅費および滞在費については組織委員会が負担しなければならない。
- 5.5.6 各階級において、スナッチ、クリーンアンドジャーク、トータルのそれぞれ上位3名に対し金、銀、銅メダルが授与される。大会組織委員会とIWFとの間で特別な取り決めがある場合はこの限りではない。

5.6 世界大学選手権大会 (WORLD UNIVERSITY CHAMPIONSHIPS)

- 5.6.1 世界大学選手権大会は、F I S U(国際大学スポーツ連盟・International University Sport Federation)の主催・管理下で、F I S U規則と要項に従い偶数年に開催される。大会開催地は、F I S Uに加盟している組織の中からF I S Uが決定する。
- 5.6.2 それぞれの世界選手権に対し、I W Fは代表者を派遣する。
- 5.6.3 競技運営に関しては、適用しうる限りI W F競技・競技会規則を適用する。
- 5.6.4 参加資格はI W F憲章及び競技・競技会規則が適用される範囲内でF I S U規則に従う。
- 5.6.5 I W Fは会場の選定、大会の準備及び大会運営に関し、相談役という立場で含まれる。
- 5.6.6 大会運営には会場国のウェイトリフティング連盟が積極的に関与すること。
- 5.6.7 大会をアシストできるよう、大会組織委員会の協定文には適切な数のテクニカルオフィシャルを指名する旨の文言を含めること。

5.7 ユニバーシアード競技大会 (UNIVERSIADE)

- 5.7.1 ユニバーシアード(夏季)競技大会におけるウェイトリフティング競技は、F I S Uの主催で奇数年に、F I S U及びI W Fが協議の上、共に承認した場合に開催される。ユニバーシアード種目に関してのF I S U及びI W Fの規則が適用される。

6 JWA競技会IWFイベントの実施方法 (PROCEEDINGS OF AN IWF EVENT)

6.1 競技会前の手順—エントリー (PRE-COMPETITION PROCEDURES - ENTRIES)

6.1.1

IWFイベントの4ヶ月前までに、開催側のNFは大会要項をIWFに加入しているすべてのNFおよびIWF理事、IWF各委員あてに送付する。

6.1.2 要項には下記の項目を記載する。

- a) IWFイベントの詳細な競技日程および関連行事のスケジュール
- b) 競技会場およびアクセス方法
- c) 宿泊施設と料金設定
- d) 報道関係者用のア kredィテーションフォーム
- e) 予備エントリーフォーム(Preliminary Entry form)、ファイナルエントリーフォーム(Final Entry form)、競技者のプロフィール記入用紙
- f) その他のインフォメーション

6.1.3

参加者は、その各々が加入しているNFからしか正式にエントリーすることはできない。予備エントリーフォームには、参加する競技者の名前、生年月日、階級、現在のトータル(エントリートータル・Entry Total)、及び役員の名前と役割を記載し、コンGRESSあるいは監督会議(テクニカルカンファレンス・Technical Conference)の60日前必着でホストNF / 組織委員会へ返送するとともにそのコピーをIWFに送付しなければな

らない。予備エントリーにおいて選手は最大で女子 9 名及び男子 10 名をエントリーできる。

6.1.4

ファイナルエントリーフォームには、競技者の名前、生年月日、階級、現在のトータル(エントリートータル・Entry Total)、及び役員の名前と役割を記載し、コンGRESSあるいは監督会議(テクニカルカンファレンス・Technical Conference)の 14 日前必着でファクスあるいは E-メールにて組織委員会へ返送するとともにそのコピーを IWF に送付しなければならない。ファイナルエントリーにおいて選手は最大で女子 9 名及び男子 10 名をエントリーできる。

ホスト NF はファイナルエントリーに記された名前を使用してホテルの予約をとることができる。予約したホテルがキャンセルによって使用されない場合、キャンセルした NF は予約の全期間に対応するキャンセル料を支払わなければならない責任が発生する。

6.1.5 ファイナルエントリーフォームは JWA **IWF** によって確認されなければならない。確認されていない・不完全な・不正なファイナルエントリーフォームは受け入れられない。ファイナルエントリーフォームに記載されていない選手は選手権に参加することができない。

6.1.6

IWF イベントに先立って行われるコンGRESSあるいは監督会議(テクニカルカンファレンス・Technical Conference)の前に、ファイナルエントリーの確認(Verification of Final Entries)が行われる。そこで各 NF は確認のための用紙を受け取り、次のこと

をしてもよい；

- 選手名のスペルの修正
- 生年月日の修正
- 階級変更
- エントリートータルの変更

しかし、選手の交代は許されない。

確認後のファイナルエントリーにおいて選手は最大で女子7名及び男子8名、一つの階級で最大2名までとなっていなければならない。それ以外の選手は削除されていなければならない。内容を確認したらサインをし、返却する。これが最後のエントリーと見なされる。すなわち、この確認作業の後は修正を一切行うことができない。

ファイナルエントリーの確認に参加できなかったチームについては、ファイナルエントリーフォームに記載された内容が最終的なエントリーの内容として取り扱われる。

6.1.7 いずれの階級も参加人数次第では、競技委員長 **コンペティシ**

ョンダイレクター及び（あるいは）コンペティションセク

レタリーによって2つあるいはそれ以上のグループに分けられることがある。グループ分けの基準にはファイナルエントリー確認後のエントリートータルが用いられる。

6.1.8 2名あるいはそれ以上の選手が同じエントリートータルで並んでいる場合は、抽選番号によってグループが振り分けられる(例：抽選番号が小さい選手がグループAに、大きな選手がグループBにまわる、など)。エントリートータルの記載に当たっては6.5.7項を考慮に入れること。

6.1.9 審判会議(Technical Official's meeting)の前あるいは審判会議において、審判団(Technical Officials)及びドクターの編成が

決められる。

6.2 抽選 (DRAWING OF LOTS)

6.2.1 ファイナルエントリーの確認後、ランダムな番号を発生させることによって抽選を行う。選手に与えられた番号は、その競技会中ずっと用いられる。

6.2.2 抽選番号は、検量及び試技順決定の資料となる。また選手のグループ分けにも用いられることがある。

6.3 検量 (WEIGH-IN)

6.3.1 検量は、競技開始2時間前に開始し1時間行う。

6.3.2 検量室には次の用意がされていなければならない；

- 公式体重計
- 競技会に必要な種類及び筆記用具等
- 役員のための机と椅子

6.3.3 各競技者は、少なくとも2名のレフリーとコンペティション
セクレタリーのもとに検量しなければならない。その競技者のチームに所属する役員1名が付き添うことができる。

6.3.4 レフリーが体重を確認し、コンペティションセクレタリーが記録する。

6.3.5 体重は表示されたとおりに記録しなければならない。

6.3.6 全ての競技者の検量が終了した後、検量リストを公表する。

6.3.7 検量は、抽選番号順に1名ずつ呼ばれ行う。もし、その順番に選手がいない場合は、最後に回される。

6.3.8 複数の階級を合同で競技を行う場合は、検量の順番は階級ごとに振り替えられた抽選番号の順とする。

6.3.9 競技者は、検量時に身元を証明するために審判団に対し選手

手帳を提示しなければならない。

競技者は検量時に身元を証明するため、コンペティションセクレタリーに対して、パスポート又は ID カードを提示しなければならない。

- 6.3.10 競技者は、全裸又は下着だけで検量する。競技者と計量を行うレフリーは、同性でなければならない。異性のレフリーがいるコンペティションセクレタリーが異性の場合には、体重計との間をスクリーンで仕切ること。
- 6.3.11 検量室は衛生上清潔に保たれていなければならない。
- 6.3.12 検量は、階級の体重区分内であれば 1 回だけが許される。ただしその階級の範囲より過不足があった場合は、時間内であれば何回でも計量できる。再計量のために戻ってきた場合の順番は特に定めない。
- 6.3.13 エントリーした階級の決められた検量時間内に体重区分の範囲内でなかった場合には、その競技会には参加できない。
- 6.3.14 検量時に、競技者のコーチは試技票に記入された体重を確認し、6.5.7 項を考慮に入れた上でスナッチとクリーン&ジャークの第 1 試技の重量を記入し、サインをする。
- 6.3.15 競技者の体重がパスしたら直ちにコーチあるいはその競技者は 3 枚のウォーミングアップ場へのパスを受け取る。同じ所属国から 2 名の競技者がいる場合は、2 人目の競技者には 1 枚のパスが渡される。これらのパスは検量時にレフリーコンペティションセクレタリーから配られ、パスを受けた者だけがウォーミングアップ場及び競技エリアに入ることができる。それぞれの階級あるいはグループについて毎回パスを受けなければならない。異なるグループのパスは異なる色でなければならない。

6.3.16 検量にパスした競技者に対し、抽選番号を階級又はグループごとに振り替えたスタートナンバーが記されたゼッケンを渡し、コスチュームに着用させる。スタートナンバーは各階級又はグループでそれぞれ1番から始まる。

6.4 紹介 (PRESENTATION)

6.4.1 それぞれの階級・グループの競技が始まる15分前に、次の人達を紹介する。

- a) その階級あるいはグループの競技者を抽選番号順に紹介する。全員の紹介後一斉に退場する。
- b) 次に審判団を紹介する。
 - レフリー
 - テクニカルコントローラー
 - ドクター
 - ジュリー
 - チーフマーシャル

注1：上記の審判団は適切な音楽に合わせて一斉に登壇し、紹介後一斉に降壇する。ただしジュリーは、選手等の紹介後、競技が始まるまでの間に競技会場で紹介する。

注2：選手紹介時にいなかった選手は、ジュリーメンバーより説明を求められる。説明の結果によっては警告あるいはさらなるペナルティ等が適用される。

6.5 競技会進行 (COURSE OF THE COMPETITION)

6.5.1 競技会主催者は、競技委員長 コンペティションダイレクター の指導の下、召集進行を管理する役員を指名する。競技の進

行には、2 種目それぞれ 3 回の試技重量を記入できる試技票 (Competitor's card) を用いる。召集進行に関わる役員をマーシャルといい、その長のことをチーフマーシャルと呼ぶ。世界選手権大会及びオリンピック競技大会におけるチーフマーシャルは、英語を話すことができる国際 1 級レフリーの資格を有している者であり、IWF から指名される。

6.5.2 召集進行係 (マーシャル) は、コーチ又は競技者から申し込まれる試技の重量や重量変更を監督する。受け付けた重量は直ちに公式記録員及び補助放送員に伝えなければならない。ウォーミングアップ場から進行席への伝達手段には、インターコムシステム、電話その他の方法を用いても構わない。

6.5.3 バーベルは順次重くなり、より軽い重量を試技する競技者が先行する。いかなる場合でも、一度アナウンスされた重量がバーベルにセットされ、計時が始まったならば、それより軽くすることはできない。従って競技者又はコーチは、自分達を選択した重量で試技することができるよう、競技の進行を見極め準備しておかなければならない。

6.5.4 バーベルは、いかなる場合も 1kg 単位で増量される。

6.5.5 成功後の自動増加重量はいずれの場合も 1kg である。

6.5.6 競技会でのバーベル最低重量は、男子はバー(20kg)に 0.5kg ディスク 2 枚とカラーをセットした 26kg、女子はバー(15kg)に 0.5kg ディスク 2 枚とカラーをセットした 21kg とする。

6.5.7 スナッチとクリーン&ジャークの第 1 試技重量の和がエントリートータルよりも男子で 20kg、女子で 15kg より下回ってはならない。このルールを実行し監視する上で責任を持つ者は、検量時における コンペティションセクレタリー とレフリー、また競技中におけるチーフマーシャル、テクニカル

コントローラー、ジュリーである。このルールは特に定めがない限りはすべての競技において適用される。

例：ある男子選手のエントリートータルが 200kg だったとすると、スナッチとクリーン&ジャークの第1試技の重量の和はいかなる場合も 180kg を下回ってはならない(80-100、70-110 など、組み合わせは自由である)。このルールが遵守されない場合には、その競技者はジュリーによって競技会から除外される。

6.5.8 コールの順番には、優先順位の高い順に次の4つの要素がある。

- バーベルの重量（軽い者が先行する）
- 試技回数（少ない者が先行する）
- 一つ前の試技における試技の順番（先に挙上した者が先行する）
- 抽選番号（少ない者が先行する）

付録の例を参照。

6.5.9 競技者は、コールされてから試技までに 1 分間が許される。30 秒経過後に警告の合図が出る。競技者が連続して試技をおこなう場合は、後の試技に 2 分間が与えられる(6.5.15 項のケースを除く)。30 秒経過後及び 1 分 30 秒経過後に警告の合図が出る。与えられた時間の経過時にバーベルが離床していなければその試技は失敗となる。計時は、放送員による試技アナウンスの終了後又はバーベルのセット終了後のいずれか遅い方をもって開始される。

6.5.10 放送員がアナウンスした重量は直ちにアテンプトボードに表示されなければならない。

6.5.11 競技者が最初申し込んだ重量を増減したい場合には、競技

者又はコーチはテクニカルコントローラー^{マーシャル}にファイナルコールされる前に申し出なければならない。

6.5.12 ファイナルコールとは、競技者に与えられた時間の 30 秒前に時計より出される合図のことである。

6.5.13 各試技について、競技者あるいはコーチは試技票に次の重量を記入しサインをしなければならない。そしてその他に最大 2 回の重量変更が認められる。もし競技者あるいはコーチがファイナルコールまでの間に重量の記入とサインを行わなければ、競技者は自動的に与えられた重量に従って試技を行わなければならない。

2 分間与えられる連続試技の場合には、競技者あるいはコーチは、コールされてから最初の 30 秒以内に次の重量を申し出なければならない。それは申し出たい重量が自動的に与えられる重量と変わらない場合でも同様である。最初の 30 秒以内に次の重量を申し出ない場合は 2 回の重量変更を行う権利を失うとともに、競技者は自動的に与えられた重量に従って試技を行わなければならない。

注：国内の大会においては、重量申し込み後の変更回数等は大会要項の定めによる。

6.5.14 コール後の重量変更は増量だけとし、重量が変更されるまで時計は止められ、つけかえが完了すると時計は引き続き規定の時間まで動くことになる。ただし、変更したために他の競技者が先に試技を行う場合には、変更後の試技時間は規定の 1 分間とする。

6.5.15 連続試技としてコールされた競技者が重量変更することにより他の競技者の番となり、その競技者がコールされ計時が始まった上でさらにその競技者が重量変更したため結果的

に最初の競技者に順番が回った場合には、1 分間しか与えられない。

6.5.16 競技者は、棄権のアナウンスが正式に放送された後は競技に戻ることができない。

《解説》 スナッチ競技で棄権してもクリーン&ジャーク競技を行うことができる。

6.5.17 バーベルのセットやアナウンスに誤りがあった場合、ジュリーは次のような処置をとる；

例 1：バーベルの重量が申し出た重量より軽かった場合。バーベルが 1.0kg の倍数で成功の場合は、希望によりその試技を成功と認める。拒否した場合は、改めて最初の申し込み重量で試技することを認める。

例 2：バーベルの重量が 1.0kg の倍数でなく、それに成功した場合は、その次に重い 1.0kg の倍数の重量を成功として認めることができる。

例 3：バーベルの重量が申し出た重量より重かった場合。バーベルが 1.0kg の倍数で成功の場合は、希望によりその試技を成功と認める。試技が失敗の場合又はその重量が 1.0kg の倍数でなかった場合は、自動的に最初の申し込み重量を試技することができる。

例 4：バーベルの左右の重量が同一でない場合、又は試技中にバーベルやプラットフォームの異常が原因で失敗した場合は、競技者又はコーチの申請によりジュリーはその試技を無効にして新たに試技を行うことを認める。

例 5：試技重量のアナウンスを間違えた場合、ジュリーはバーベル取扱ミスと同様に処理する。

例6 : 競技者がプラットフォームの近くにいることができないような競技会で、他の競技者の進行を知ることができないような場合に、もし、その競技者の順番の時に放送員がコールをしないまま進行した時は、バーベルの重量は本来の重量まで下げられなければならない。

6.15.18 2名の選手で行われる、あるいは2カ国間で複数の階級の選手が出場するような国際マッチなどにおいては、試技を交代で行っても構わない。軽い重量を申し込んだ選手から順に試技を行い、スナッチの間あるいはクリーン&ジャークの間、その順序は変更しない。

6.5.19 競技会中はジュリー、その階級あるいはグループを担当しているレフリー、放送員、テクニカルオフィシャル、パスカードを所持しているチーム関係者(6.3.15 項参照)、そしてその階級あるいはグループの競技者だけが、プラットフォーム及び演技台の周辺にいることを許される。

6.6 休憩 (BREAK)

6.6.1 スナッチ種目終了後、クリーン&ジャークのウォーミングアップのために10分間の休憩をとらなければならない。

6.6.2 ジュリーの裁量により、スナッチ・クリーン&ジャーク間の休憩時間を短縮したり延長することができる。ただし、その際は周知徹底しなければならない。

6.7 競技者とチームの順位 (CLASSIFICATION OF ATHLETES AND TEAMS)

6.7.1 IWFルールに基づいて行われる公式競技会においては、スナッチとクリーン&ジャーク及びトータルのそれぞれを表

彰しなければならない。それぞれ3位までの入賞者に対して金・銀・銅のメダルを授与する。

6.7.2 スナッチとクリーン&ジャークの順位決定には次の要素が関係する；

1. ベスト重量 — 高い方の順位が上。同じ場合は、
2. 体重 — 軽い方の順位が上。同じ場合は、
3. ベスト重量が達成された試技における試技回数 — 早い方が上。同じ場合は、
4. その前の試技（第2試技→第1試技とさかのぼる場合もありうる）の重量 — 軽い方の順位が上。同じ場合は、
5. 抽選番号 — 小さい方が上。

6.7.3 トータルの順位決定には次の要素が関係する；

1. ベスト重量 — 高い方の順位が上。同じ場合は、
2. 体重 — 軽い方の順位が上。同じ場合は、
3. クリーン&ジャークのベスト重量 — 低い方の順位が上。同じ場合は、
4. クリーン&ジャークのベスト重量が達成された試技における試技回数 — 早い方が上。同じ場合は、
5. クリーン&ジャークのその前の試技（第2試技→第1試技とさかのぼる場合もありうる）の重量 — 軽い方の順位が上。同じ場合は、
6. 抽選番号 — 小さい方が上。

6.7.4

世界選手権大会及びIWFルールに基づいて行われる競技会においてチームポイントは下記の得点配分を用いて計算する。

1位 28点	10位 16点	19位 7点
2位 25点	11位 15点	20位 6点

3位 23点	12位 14点	21位 5点
4位 22点	13位 13点	22位 4点
5位 21点	14位 12点	23位 3点
6位 20点	15位 11点	24位 2点
7位 19点	16位 10点	25位 1点
8位 18点	17位 9点	
9位 17点	18位 8点	

6.7.5

世界選手権大会及びIWFルールに基づいて行われる競技会においては、トータルと同様にスナッチとクリーン&ジャークの得点もそれぞれのチームに与えられる。

6.7.6

2つあるいはそれ以上のチームが同点の場合は、上位獲得者の多いチームが上位となる。

6.7.7 スナッチで失格しても競技会からは除外されずクリーン&ジャークを行うことができる。

そして、クリーン&ジャークの得点がチームポイントに加算される。トータルに関しては対象外とする。トータルのみが表彰される大会においては、スナッチで失格すると競技会から除外される。

6.7.8 同様に、スナッチで成功しクリーン&ジャークで失格した場合も上記に準じる。

7 競技役員 (OFFICIALS OF THE COMPETITION)

7.1 全般的なとりきめ (General provisions)

7.1.1 各競技会には適切な数の審判団が任務に当たらなければならない。IWF イベントにおいて選ばれたテクニカルオフィシャルは、任務にあたる競技会においていかなる選手をも指導したりアシストしてはならない。

7.1.2 IWF イベントにおいては、下記のテクニカルオフィシャルが任務にあたる；

- コンペティションセクレタリー / コンペティションダイレクター
- ジュリー
- テクニカルコントローラー
- レフリー
- タイムキーパー
- チーフマーシャル

7.1.3 ドクター（複数の場合もある）も指名される。

7.1.4 審判団は次のIWFユニフォームを着用する；

- ダークブルーのジャケット
- 青と白のストライプのYシャツ
- JWA IWFのネクタイ（女子はスカーフ）
- ベージュのズボン（女子はベージュのスカートかズボン）
- ダークのソックス（ストッキングはダークでなくて可）
- 黒の靴
- ジャケットの左襟にJWA IWFの金属のバッジ
- JWAのレフリーワッペン（注：IWFはジャケットに刺繍があるため不要）

バッジはJWA IWFのものしかつけてはならない。なぜ

ならば審判団は JWA IWF の代表だからである。特に暑いときはプレジデントジュリーの判断によりジャケットを脱ぐことが許される。IWF から指示があった場合には公式のサファリユニフォームを着用しなければならない。オリンピック競技大会やその他の複合競技大会においては組織委員会から指定されたユニフォームを着用しなければならない。

7.1.5 テクニカルオフィシャルはそれぞれの任務にあたる場所に 30 分以上前に到着していなければならない。

7.2 競技委員長 コンペティションセクレタリー / ダイレクター
(COMPETITION SECRETARY / DIRECTOR)

7.2.1 全ての競技会に競技委員長 コンペティションセクレタリー /
ダイレクター が指名されなければならない。競技委員長 コ
ンペティションセクレタリー / ダイレクター は、ジュリー・
テクニカルコントローラーと協力して競技会の円滑な進行
を図らなければならない。

競技委員長 コンペティションセクレタリー / ダイレクター の任
務は次の通り；

7.2.2 選手のリストを確認し、必要と認めた場合は選手のエン트리
ートータルに応じ 2 つ又はそれ以上のグループに分ける。

7.2.3 コンピュータによる抽選を行わなかった場合、監督会議総会
での抽選を監督する。

7.2.4

検量の監督をし、検量室で任務にあたるテクニカルオフィシャ
ルの役割分担を行う。

7.2.5 試技順序を確認する。また競技会で用いられる IT システム

の操作及び公式記録の確認を行う。

7.2.6 日本新記録世界新記録・オリンピック記録の申請・登録の確認をする。

7.2.7 競技・競技会規則 6.5.7 項の監視及び執行を行う。

7.3 ジュリー (THE JURY)

7.3.1 ジュリーの役割は、競技・競技会規則が適切に運用されているか確認することである。

7.3.2 ジュリー団全員は、国内1級国際1級レフリーの資格を有すること。

7.3.3 ジュリー団の編成は、異なる都道府県国からの代表でなければならない。

注:可能な限り、各グループに女性のジュリーを含めること。

7.3.4 JWA管理下の競技会のジュリーは、審判委員会の推薦により理事会で決定する。JWA管理下の競技会では、ジュリーは3名で編成され1名をプレジデントとする。

IWF イベントにおけるジュリーは各グループ3名あるいは5名で編成され、それぞれ1名をプレジデントとする。2名までのリザーブを指名しても構わない。

7.3.5 ジュリーは、競技の途中で判定が正しくないレフリーに対し、最初は注意を与えるが、数回に及ぶ場合はジュリー団の合意により交代させることができる。レフリーの判定上のミスが自分の意思に反しても生じることがある。このような場合は、レフリーは、自分の判定について説明をすることができる。

7.3.6 ジュリーは、レフリーの判定に対する評価を特別の用紙にて行う。その用紙は公式記録員によって回収され、審判委員会及びJWAに報告される。

ジュリーは競技会全般においてレフリーを評価し、特記すべき事項に焦点を当て特別な用紙を用いて報告する。プレジデントジュリーはその用紙をとりまとめ、技術委員会委員長あるいはIWF事務総長に提出する。

7.3.7 ジュリーの過半数がレフリーの判定が競技規則上正しくないと判断し、ジュリー全員が合議の上でそれに同意した場合は、レフリーの判定を覆す権限を有する。その様な決定がなされた場合は、プレジデントジュリーの指示によりテクニカルコントローラーあるいは他の審判団を通じ、関係する競技者又はコーチに理由とともに伝えられなければならない。そして、放送員はその決定と理由を観客に対しアナウンスする。

7.3.8

上記のルールを適用するために、ジュリー団はジュリー席に設置された装置を用い、1 試技毎に成功か失敗の判定を行う。この装置にはそれぞれ5つの緑、赤、白のLEDランプがついており、各ジュリーの手元には赤と白のボタンがついたボックスがつなげられている。ジュリーがいずれかのボタンを押すと緑のLEDランプが点灯する。赤あるいは白のLEDランプは全員のジュリーがいずれかの判定をした後でないと点灯しない。いかなるジュリーも、他のジュリーメンバーの判断に影響を及ぼすようなことをしてはならない。

7.3.9 競技が行われている間、ジュリーは競技・競技会規則 6.5.7 項の監視及び執行を行う。

7.3.10 ジュリー席は、競技のよく見える場所に位置される。ジュリー席はセンターレフリーとサイドレフリーの間にあり、プラットフォームの中心から 10m 以内に設置されなければならない。リザーブのジュリーは、任命があるまでその席に着

くことはできない。

7.3.11 ジュリーメンバーは、表彰式の時も所定の場所にいないといけない。またレフリーが所定の位置にいるよう監督する。

7.3.12 プレジデントジュリーと進行席が連絡できるように、自動接続電話を設置しなければならない。

7.4 テクニカルコントローラー (TECHNICAL CONTROLLERS)

7.4.1 テクニカルコントローラーは、競技会を円滑に進行させるために競技委員長 コンペティションセクレタリー / ダイレクター の補佐役として任命され、レフリーと共にその任務にあたる。

7.4.2 テクニカルコントローラーは、国内1級審判員でなければならない。

世界選手権大会及びオリンピック競技大会におけるテクニカルコントローラーは国際1級レフリーでなければならない。

注：可能な限り、各グループに女性のテクニカルコントローラーを含めること。

7.4.3

世界選手権大会及びオリンピック競技大会においては、1階級2名のテクニカルコントローラーが指名される。その他のIWFイベントにおいては、IWFから派遣された役員によって適切な数のテクニカルコントローラーが指名される。

テクニカルコントローラーの任務は次の通り；

7.4.4 プラットフォーム・バーベル・計量器・電気判定システム・時計・ウォーミングアップ場その他競技会に関する全ての施設をチェックする。

7.4.5 レフリーの服装をチェックする。

- 7.4.6 競技会前に、自分の審判手帳（レフリーカード）をプレジデントジュリーの机の上に置き、終了後それを返却してもらう。
- 7.4.7 競技会中に競技者の服装をチェックし、必要に応じ競技規則に従わせる。もし、競技者の服装・バンデージ・潤滑材等の違反があり、コール前に直させる場合の時計については2.3.6により対処する。
- 7.4.8 競技中、競技会場・ウォーミングアップ場において、競技者に付き添っている者の人数が適切か、パスを有しているかをコントロールする。
- 7.4.9 競技者が演技台上にいる時は、テクニカルコントローラーを含むいかなる者も競技者のそばにいてはならない（観客に見える所、及びテレビに映る所に入ってはならない）。
- 7.4.10 競技中、アテンプトボード（あるいはスコアボード）に示された内容を確認する（選手名、試技、重量、時間は正しいか）。アナウンスがなされたならば選手をプラットフォームにあげさせてもよい。
- 7.4.11 プラットフォーム及びバーの清掃について、係員に指示をする。
- 7.4.12 もし要求があれば、アンチドーピング委員会及び検量の補助をする。
- 7.4.13 競技・競技会規則 6.5.7 項の監視及び執行を行う。

7.5 レフリー (REFEREES)

- 7.5.1 レフリーは、全ての競技会において、各試技を正しく判定することが任務である。全ての審判員は、競技会参加の時に JWA IWF 発行の有効な審判手帳 レフリーカード を所持していなければならない。

※ 国内審判員に関しては、公認審判員認定規定で定める。

7.5.2 国際レフリーは、2つのクラスに分類される；

a) 2級：国内選手権大会・国際トーナメント・地域ゲーム・大陸選手権大会でレフリーをすることができる。

b) 1級：上記大会やトーナメントのほか、オリンピック競技大会・世界選手権大会でレフリーをすることができる。また、あらゆる国際大会でジュリーをすることができる。

7.5.3 レフリーライセンス

オリンピックサイクルの間、各NFの申請に応じてIWFはレフリーライセンスを発行する。国際大会では、レフリーライセンスを所有している者だけがレフリーをすることができる。

7.5.4 レフリーライセンスは、レフリーカードの最終ページにシールで印す。

7.5.5 ライセンスのあるレフリーだけがIWFに登録される。

7.5.6 オリンピックサイクル間のレフリーライセンスの費用は、1級US\$200、2級US\$100とする。

7.5.7 新しいカード代は(1級・2級にかかわらず)US\$200とする。

7.5.8 費用の支払いには申請書を添付すること。

7.5.9 新しいカードには、ライセンスとともに費用を支払わなければならない。

7.5.10 新たに国際2級レフリーとなった者の資格取得年月日は、テストの期日とする。

7.5.11 カードには、任務に当たった国際大会を記録する欄がある。実施した時の記録は、IWF会長・IWF事務総長・プレジデントジュリー・コンペティションセクレタリー / ディレクター、又は国内NFの事務総長が行う。

競技会におけるレフリー (REFEREES AT COMPETITION)

7.5.12 JWA主催の競技会では、競技会毎にレフリーが先行される。

IWF主催の競技会では、階級又はグループ毎に3人のレフリー(1名のセンターレフリー・2名のサイドレフリー)と1名のリザーブレフリーが指名される。

注:可能な限り、各グループに女性のレフリーを含めること。

7.5.13 競技会前に、競技委員長(コンペティションセクレタリー /
ダイレクター)の案内の下にテクニカルコントローラーと
協力し次のことを確認しなければならない；

- 競技会に必要な器具用具
- 全ての競技者が、与えられた時間内に検量を通したか
否か

7.5.14 競技会前に、各レフリーは、自分の審判手帳(レフリーカード)
をプレジデントジュリーに提出しなければならない。

7.5.15 センターレフリーは、プラットフォームから4m (プラットフォームの先端からレフリーテーブルの後部まで)離れた中心に座らなければならない。サイドレフリーは、センターレフリーと同一線上の3~4m離れた位置に座らなければならない。

7.5.16 競技会中レフリーは、次のことを確認しなければならない。

- バーベルの重量が放送員のアナウンスと一致していること。
- 試技の途中、競技者以外のいかなる者もバーベルに触れていないこと。
- 競技者自身か器具員だけがバーベルをプラットフォーム上の新しい位置に動かすことができる。コーチがバーベル

の位置を動かしたり整備することは禁じられている。もし競技者がバーベルをレフリーが見にくいような位置に移動した場合、レフリーは試技が正しく見える位置に移動し、その後自責に戻り合図を与える。

- 競技・競技会規則 6.5.7 項が遂行されているかどうか。

7.5.17 レフリーはシグナルで試技の判定を下す。成功—白のライト、失敗—赤のライト。成功の試技—2 つ又は 3 つの白ライト、失敗の試技—2 つ又は 3 つの赤ライト。

7.5.18 電気判定システムの故障によりライトシステムが作動しなかった場合あるいは電気判定システムを用いない競技会においては、センターレフリーは競技者の動きが止まり両足が同一線上に揃えられると同時に「ダウン」の合図を与える。この合図は、よく聞こえ且つよく見えなければならない。すなわち、センターレフリーは「ダウン」と言うのと同時に腕を振り下ろす動作をする。

7.5.19 電気判定システムがない場合又は作動しない場合は、赤と白の小旗で代用させてもよい。各レフリーは、判定に相応しい旗をあげることによって決定を示す。

7.5.20 電気判定システムが使用されない場合、サイドレフリーの 1 人が試技の途中重大な反則を見つけた時にはその反則に注意を促すために手を挙げなければならない。もし、他のサイドレフリーかセンターレフリー自身がそれに同意すれば多数意見を構成するので、センターレフリーは試技を中止するためにバーベルを降ろす合図をしなければならない。

7.5.21 もし、競技会においてテクニカルコントローラーが指名されていない場合は、レフリー団がその任にあたる(7.4 項参照)。

7.5.22 レフリーは、自分の判定している競技中、その競技について

てのコメントは差し控えなければならない。

7.5.23 レフリーは競技中、他のレフリーの決定に影響を与えるようなことをしてはならない。

7.5.24 競技終了後、レフリーは次のことをしなければならない；

- もし新記録が樹立された場合には申請書にサインをする
- プレジデントジュリーがサインした審判手帳レフリーカードを受け取る
- 表彰式終了まで所定の位置にいること

世界選手権大会及びオリンピック競技大会におけるレフリー
(REFEREES AT WORLD CHAMPIONSHIPS AND OLYMPIC GAMES)

7.5.25 同一グループに同一国より 2 名のレフリーを選ぶことはできない。

7.5.26 世界選手権大会において服務するために、各NFは大会の 3 か月前に最大 2 名の国際 1 級レフリーをノミネートすることができる。IWF 理事会と技術委員会は、世界選手権大会で役務に当たるものをリストの中から選考する。選考すべきテクニカルオフィシャルの人数は、選手権大会の正確なプログラムに基づき IWF が決定する。各NFは、指名及び無指名の通知を受ける。必要と判断された場合は、IWF はその裁量によってノミネートされていない者を IWF の加盟 NF の中から指名する権利を有する。その様にして指名されたレフリー及びそのNFは通知を受ける。コンペティションセクレタリー / ダイレクターは大会開催地において、大会が始まる前にそれらのテクニカルオフィシャルの編成を行う。

7.5.27 オリンピック競技大会のテクニカルオフィシャルは、IWF 理事会においてノミネートされたリストの中から選考する。各NFは、大会の 6 か月前に最大 2 名のレフリーをノミ

ネートすることができる。

国際レフリーの昇級 (PROMOTION OF REFEREES)

7.5.28 国際レフリーになるためには、次の条件を備えていなければならない；

- a) 国内レフリーとして5年以上経験があること。
- b) 各NFからの推薦があること。
- c) IWFの競技・競技会規則を熟知していること。
- d) IWF又はNFが実施するIWFが認めた大会での実技テストにおいて合格していること。
- e) IWF技術委員会が作成したIWFレフリー試験問題において85%以上の得点を得ていること。

国際1級レフリーテストの条件 (Conditions for the Referee's examinations for category 1)

7.5.29 2級から1級に昇級するためには、IWFルールにより実施された競技会（マスターズの競技会は除く）において3名の国際1級レフリーの前で実技テストを行わなければならない。さらに、IWF技術委員会が作成したIWFレフリー試験問題（内容は定期的に改変される）において合格しなければならない。

7.5.30 国際2級レフリーとして2年以上の経験を有すること。

7.5.31 テストは、IWFイベント（世界選手権大会を除く）や国内選手権大会でも行える。

7.5.32 3人の試験官は同一国の者でも構わない。

7.5.33 各試験官は別々に席を占め、他の者と相談したりせず独立して採点評価しなければならない。

7.5.34 電気判定システムが使用される場合は、同時に3名のレフリーが受験できる。そうでない場合は、センターレフリーだ

けが受験できる。

7.5.35 採点を記録するために、試験官は競技会のスコアシートを用いる。

7.5.36 スコアシートにおける受験者の氏名等の記載方法は、プラットフォームに対する位置で記載する。すなわち、プラットフォームに向かって左側が受験者 No.1、センターレフリーが No.2、向かって右側が No.3 となる。試験官も氏名と国籍を記載し、署名しなければならない。

7.5.37 全試験官の用紙が一致するように、競技者の氏名は同じ順に記載しなければならない。

7.5.38 受験者は、試技の完了・未完了に関わらず 100 試技以上の判定をしなければならない。

7.5.39 試験官は、スコアシートに各試技に対する判定意見を次のように記入する。／は成功の試技。×は失敗の試技。この記号の下に、3 名のレフリーの判定を記入する。

《例》 ／＝白のライト ×＝赤のライト

 ／ 全レフリー共
 ／／／ 正しい判定

 × 全レフリー共
 ××× 正しい判定

 × センターレフリー
 ×／× の判定の誤り

 × No.1 レフリー
 ／×× の判定の誤り

- 7.5.40 もしセンターレフリーだけがテストを受ける場合、センターレフリーのダウンの合図が早すぎたり遅すぎたりした時は×Sと記入する。従って、受験者は1試技の判定で2つのミスとカウントされることがある。これらはスコアシートに記録される。
- 7.5.41 スナッチやクリーンやジャークの途中で落とした場合のように、最後まで試技が完了しなかった時は○を記入する。
- 7.5.42 完了しない試技に対して誤った判定をした場合は、○のかわりに×を記入し、判定ミスの1つに数える。
- 7.5.43 国際1級レフリーに昇級するためには、100試技以上の判定をし、その内、完了した試技の中の正解率が95%以上であり筆記テストは90%以上の正解率であること。
- 7.5.44 スコアシートの原本は、改ざんや追記などがない状態でIWF事務局に送付される。そして実技テストの正解率が計算される。
- 7.5.45 IWF事務局は、テストの合格者に、受験者の所属するNFを通じて国際1級レフリーカードとライセンスを発行する。
- 7.5.46 認定年月日は、受験の年月日とする。
- 7.5.47 国際2級のライセンスを所有しているレフリーが国際1級に昇級する場合は、新たな国際1級のカードを取得するために、同じオリンピックサイクル内であってもUS\$200を支払わなければならない。
- 7.5.48 不合格者は次の受験まで6か月を経過しなければならない。

7.6 タイムキーパー (TIMEKEEPER)

- 7.6.1 IWFルールに基づき開催される全ての競技会には、主催者

がタイムキーパーを指名しなければならない。

7.6.2 タイムキーパーは、審判員の資格を有していなければならない。

タイムキーパーはオリンピック競技大会においては国際1級レフリーの資格を有していなければならない。世界選手権大会においては国際レフリーの資格を有していなければならない。大陸選手権大会、地域ゲーム、その他のIWFイベントにおいては国際あるいは国内レフリーの資格を有していなければならない。

7.6.3 タイムキーパーの任務は次の通り；

7.6.4 競技会中、競技者のコール後の計時を競技規則に則って行う。

7.6.5 各試技開始前に時計を1分あるいは2分にセットする。計時は、放送員による試技アナウンスの終了後又はバーベルのセット終了後のいずれか遅い方をもって開始する。

7.6.6 バーベルが離床すると同時にストップボタンを押す。

7.6.7 バーベルが膝の高さまで引き上げられなかった場合は計時を再開する。

7.6.8 タイムキーパーは任務を正確に遂行するために、放送員やブレジデントジュリーと緊密な連絡を取らなければならない。

7.7 チーフマーシャル (CHIEF MARSHAL)

7.7.1 チーフマーシャルの主要な任務は、関係する競技・競技会規則に従って、コーチ又は競技者が申告した次重量・重量変更を受け付ける、あるいは拒否すること、そしてインターコムシステムを用いてそれらの重量に関する情報を進行席に伝達することである。

7.7.2 世界選手権大会及びオリンピック競技大会におけるチーフ

マーシャルは、英語を話すことができる国際1級レフリーであり、IWFから指名される。

7.8 放送員 (SPEAKER(S))

7.8.1 1名あるいはそれ以上の放送員が指名される。放送員の任務は、競技会進行に必要な放送を行うことである。そこには；

- プラットフォームに登場する競技者の氏名
- 所属国
- バーベルの重量
- 試技回数

7.8.2 放送員は、次に試技を行う競技者の名前も知らせる。補助放送員が指名されてもよい。補助放送員は召集進行係（マーシャル）から重量変更等の情報を受け、放送員に知らせる。

7.8.3 放送員は6.4項に従って各種の紹介を行うとともに、競技進行中、随時必要なアナウンスを行う。

7.8.4 放送員は時間の許す限り、観客に向けて競技の進行状況を説明する。

7.8.5 9.2項に従い表彰式のアナウンスを行う。

7.8.6 競技運営 IT システムが用いられない競技会においては、放送員は国際レフリーの資格を有していなければならない。

7.9 ドクター (DOCTORS ON DUTY)

7.9.1 オリンピック競技大会・世界選手権大会その他主要な国際競技大会において、それぞれの階級ごとにドクター・オン・デューティーとしてメディカルドクターが指名される。

ドクターの任務は次の通り；

7.9.2 検量から競技終了まで競技会場にいること。

- 7.9.3 医療設備・器具を使いこなすことができること。もし要請があれば、ドーピングコントロールの補佐をする。
- 7.9.4 競技者が病気・怪我をした場合には、チームドクターと協力し治療にあたる。競技続行について、コーチ・役員・競技者にアドバイスを行う。
- 7.9.5 競技会中、競技者がプラスターやバンデージをつけることに對し、競技規則に基づく可否の権限を有する。
- 7.9.6 世界選手権大会の場合は、同時に2名のドクターが任務にあたる。必要な場合はチームドクターが補佐するよう要請されることがある。医療行為が必要とされる場合は、競技者はそのドクターが付き添うことを承諾しなければならない。
- 7.9.7 オリンピック競技大会においては、IWFが指名したドクターだけが1階級あるいはグループにつき2名任務する。

IWF イベントにおけるドクターの責任範囲 (Ranges of responsibilities at IWF Events)

- 7.9.8 指名されたドクターの責任範囲は競技エリアについてのみである。すなわちそれは FOP とウォーミングアップ場である。
- 7.9.9 アクシデントや怪我の場合ドクターは、状況を見極めた上で地元のドクターあるいはチームドクターによってさらなる処置が必要かどうかを判断する。チームドクターがいない場合には、処置を地元のドクターにゆだねるか自ら処置を施すかの決定は、ドクター・オン・デューティーの判断で決めるよい。
- 7.9.10 競技エリア外にはドクターの責任範囲は及ばない。
- 7.9.11 これらの手順を確実にするため、競技会が始まる前に、地元の医療団体と打ち合わせをし、また医療設備の下見をする。

8 世界記録 (WORLD RECORDS)

- 8.1 IWFは世界記録、ジュニア世界記録、ユース世界記録、オリンピック記録を、男子8階級・女子7階級のそれぞれのスナッチ・クリーン&ジャック及びトータルについて公認する。
- 8.2 ユースの競技者はユース記録、ジュニア記録、世界記録を樹立することができる。ジュニアの競技者はジュニア記録と世界記録を樹立することができる。シニアの競技者は（シニアの）世界記録を樹立することができる。
- 8.3 世界記録は、IWFのカレンダーに記載された大会においてのみ公認する。
- 8.4 オリンピック記録はオリンピック競技大会においてのみ公認する。
- 8.5 各種世界新記録は、アンチドーピングテストを受けて合格した競技者によって樹立されたものでなければならない。
- 8.6 世界記録は、3人の国際レフリーによって判定されたものでなければならない。
- 8.7 世界記録の申請は、次の条件を満たさなければならない；
 - a) 前の記録を1kg以上上回っていること
 - b) 新記録はプロトコールシートを用いて申請されなければならない。そこには次の事項が含まれていること：
 - 競技者の氏名及びIWF/IOC国名コード
 - 競技者の体重
 - 競技者の生年月日 (dd/mm/yy)
 - バーベルの重量
 - 階級
 - 競技会名
 - 会場地と期日

9 式典 (CEREMONIES)

9.1 開会式 (OPENING CEREMONY)

世界選手権大会に先立っては、下記の手順で開会式を行う。

9.1.1

参加選手団あるいはその代表者がアルファベット順で入場する。ただし、開催国の選手は最後を歩く。

9.1.2

各チームの旗手はステージ上で半円を描く。

9.1.3

ゲストが入場し、ステージ上の所定の位置に着く。

9.1.4

ホスト国のゲストがスピーチをする。

9.1.5

ホスト国のNF会長がスピーチをする。

9.1.6

IWF会長が返答スピーチを行い、開会を宣言する。

9.1.7

ホスト国の国歌を演奏しその間にホスト国とIWFの旗を掲揚する。

9.1.8

ゲストが退場し、続いて選手団が退場する。

9.1.9

ホスト国によるエンターテインメントプログラム。

9.2 表彰式 (VICTORY CEREMONY)

世界選手権大会においては、各階級が終了するとともに下記の

手順で表彰式を行う。

9.2.1

プラットフォーム上に 3 人のメダリストのための表彰台を置く。

9.2.2

メダリスト、メダルを持った表彰担当者、プレゼンターがステージに上がり、所定の位置に着く。メダリストは表彰台の後ろに一列に並ぶ。

9.2.3

放送員はプレゼンターを紹介する。IWF 会長がメダルを授与する。メダルの授与を他の IWF 役員やホスト国の代表者あるいはスポンサーに託しても構わない。銅メダルの表彰から始める。放送員は、スナッチについて、名前、国名、結果を銅メダリスト、銀メダリスト、金メダリストの順で紹介する。選手は一人ずつ表彰台に上がり、メダルを受け取る。全員がメダルを授与されたら表彰台から降りる（ここでは国旗の掲揚と国歌の演奏は行わない）。

9.2.4

クリーン&ジャークについて、もし表彰者がスナッチと異なる場合は、放送員はプレゼンターを紹介する。銅メダルの表彰から始める。放送員は名前、国名、結果を銅メダリスト、銀メダリスト、金メダリストの順で紹介する。選手は一人ずつ表彰台に上がり、メダルを受け取る。全員がメダルを授与されたら表彰台から降りる（ここでは国旗の掲揚と国歌の演奏は行わない）。

9.2.5

トータルについて、もし表彰者がそれまでの表彰者と異なる場合は、放送員はプレゼンターを紹介する。銅メダルの表彰から始める。放送員は名前、国名、結果を銅メダリスト、銀メダリスト、金メダリストの順で紹介する。選手は一人ずつ表彰台に上がり、メダルを受け取る。

9.2.6

トータルのメダルの授与に引き続いて優勝者の国歌が演奏され、国旗が掲揚される。メダリスト達はその間、表彰台の上に立ったままにいる。

9.2.7

表彰係、メダリスト、プレゼンターは退場する。

9.2.8

IWF会長はメダルの授与に際し、1-2名の者を同伴しても構わない。

9.2.9 表彰式は厳かに行うこと。入場・退場に際しては音楽を伴うこと。

9.2.10 表彰式の間、メダリストは表彰台に携帯電話などの電気・電子機器を持ち込んではいならない。また関係ない人物を同伴してはいならない。

9.2.11 表彰式の参加者は、表彰式を政治的、人種的、宗教的プロパガンダに利用してはいならない。

9.3 閉会式 (CLOSING CEREMONY)

世界選手権大会の全競技終了後には、下記の手順で閉会式を行う。

9.3.1

参加選手団の代表者はステージ上に入場し所定の位置に着く。

9.3.2

各チームの旗手はステージ上で半円を描く。

9.3.3

ゲストが入場し、ステージ上の所定の位置に着く。

9.3.4

ホスト国のNF会長がスピーチをする。

9.3.5

IWF会長が返答スピーチを行い、閉会を宣言する。

9.3.6

ホスト国の国歌を演奏しその間にホスト国とIWFの旗を降納する。

9.3.7

IWF旗が会長に手渡される。

9.3.8

IWF旗が次の世界選手権大会開催地の代表者に手渡される。

9.3.9

ゲストが退場し、続いて選手団が退場する。

9.3.10

大会組織委員会とIWFとの間での協議事項として、チームトロフィーの表彰を閉会式と併せて実施しても別途団体表彰式を行っても構わない。

10 テレビ放映と広告 (TELEVISION AND ADVERTISING)

10.1

IWFはテレビ放映、マーケティング、インターネット放映(ウェブキャスティング)、大会後のビデオ販売、広告、その他世界選手権やIWFの管理下にある大会に関するあらゆるマルチメディアについての権利を所有している。

10.2

これらの権利を買い取る場合には、費用をIWFに支払わなければならない。金額についてはIWF会長および事務総長と相談の上で決定する。

10.3

テレビ放映権、マーケティング、スポンサーによって得られた収入は、大会を開催したNFあるいは大会組織委員会とIWFとの間で交わされた協定書に基づいて分配される。

10.4 登録商標: 世界選手権大会およびIWFが運営するイベントにおいては、選手が衣服の上につけることのできる登録商標は、

- a) 製品メーカーの商標 (ロゴ、名前、あるいはその両方)
 - b) 商業スポンサーの商標 (ロゴ、名前、あるいはその両方)
- が、一つの製品につき 500cm²をこえてはならない。製品メーカー特有のデザインパターンはこの面積に含めなくて構わない。このサイズを超えるものは広告と見なされ、関与する諸規則が適用される。

10.5 オリンピック競技大会については、登録商標に関するIOC規則が優先される。

11 競技者・参加者に対するプライマリ・ケア（第一次医療） (PRIMARY MEDICAL CARE FOR COMPETITORS AND DELEGATES)

11.1

世界選手権大会やその他の IWF イベントにおいては、組織委員会は参加する選手・役員を含めた参加者の不慮の病気や怪我に備え、プライマリ・ケアの態勢を整えておかなければならない。そのためには、競技及びトレーニングの時間中、アシスタントをつけたドクターと、救急車 1 台を待機させておかなければならない。競技会場の一角に医務室としてのスペースを設け、基本的な医療器具、バンデージ、医薬品、また応急処置を施すためのベッドなどを用意する。

11.2

大会期間中は、AD カードを所持した全ての人々に対し、いつでもプライマリ・ケアを提供できるようにしておかななければならない。このような医療サービスにかかる経費は、それぞれの大会組織委員会が負担する。その選手・役員が自国を出発する前に医療保障のある保険に加入していたならば、組織委員会はそれぞれの NF を通じ、費用請求の手続きをとっても構わない。

11.3

プライマリ・ケアとしての診察や処置をした上で、組織委員会のドクターによって症状や傷害が長引く疑いがあると判断された場合には、組織委員会側のドクターの裁量により、さらなる検査や処置を行うことができる。これらの内容については、組織委員会側の医事委員や IWF の医事委員に相談しても構

わない。

11.4

上記の手順については I W F が各大陸連盟の医事委員会に対し、各競技会において適用するよう勧告しているものである。